

1-9 フランス語学フランス文学

研究・教育活動の概要と特色

当専攻分野はフランス文学・フランス語学を中心に、フランス語を窓口とするフランス語圏全般の文化・歴史を対象とする研究活動を行っている。阿部宏教授はフランス語学、今井勉准教授、ヤン・メヴェル准教授はフランス文学、翠川博之助教はフランス思想が専門であるが、言語における主観性概念・日仏英対照言語学（阿部）、ヴァレリーの未刊草稿研究・フランス語圏文学・クレオール文化・象徴主義・複合型文学（今井）、ベケット研究・デュラス研究・文学におけるメランコリー・フランス地域文学・フランス文学における日本の象徴（メヴェル）、サルトル研究・モラル論・文学理論・フランス社会思想史（翠川）、などその関心領域は多岐にわたっている。いずれにおいても緻密なテキスト読解、また文献資料や実例の具体的検討にもとづく堅実な研究態度は、講座創設以来の伝統である。

学部卒業の要件として卒業論文の執筆を義務づけており、学部教育においてはフランス語テキストを含む諸文化表象の読解のしかたを基礎から学ばせると同時に、各々の感性を通じて読み取ったものをいかに論理的、説得的に表現するかについて、その方法論を養うことを主眼とした講義も開講している。大学院では、少人数制の利点を活かし、前期課程において、テキストの精読、参考文献の活用など、専門研究の基礎を身につけさせる。同時に、文学の院生も語学研究の基礎を、語学の院生も文学研究の基礎を学び、文学・語学について総合的な知識を身につけるよう指導している。後期課程においては、論文執筆や研究発表の実践的指導を綿密に行っており、全国学会の学会誌への投稿や学会発表を奨励している。また、専攻分野修了生と院生を主たる会員とする学会誌を刊行しており、院生は積極的に論文執筆を行っている。学部から博士後期課程を通じて、生きたフランス語の表現能力を養うためフランス留学を奨励しているのも当専攻分野の大きな特色である。

I 組織

1 教員数（2008年4月現在）

教授：1

准教授：2（含フランス人教員1）

講師：0

助教：1

教授：阿部 宏

准教授：今井 勉, ヤン・メヴェル

助 教：翠川博之

2 在学生数 (2008 年 4 月現在)

学部 (2 年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
24	0	6	7	0

3 修了生・卒業生数 (2004～2008 年度)

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (満期退学者)	博士学位 授与者
04	5	0	1	0
05	4	1	1	0
06	4	2	0	0
07	8	1	0	0
08	7	5	1	
計	28	9	3	0

II 過去 5 年間の組織としての研究・教育活動 (2004～2008 年度)

1 博士学位授与

1- 1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
04	0	0	0
05	0	0	0
06	0	0	0
07	0	0	0
08			
計	0	0	0

1- 2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

なし

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
04	3	2	0	0	5
05	2	0	0	0	2
06	5	0	0	0	5
07	2	0	2	0	4
08	3	1	0	0	4
計	15	3	2	0	20

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
04	0	5	2	0	7
05	0	4	3	2	9
06	1	2	3	1	7
07	0	1	0	0	1
08	0	1	2	1	4
計	1	13	10	4	28

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

辻野稔哉(専門研究員)「マルチメディア外国語教育の再検討ーフランス語初級文法教科書『カドラージュ』の試みー」, 『リベラルアーツ』(岩手県立大学共通教育センター)創刊号, 2005年1月。(岩手県立大学准教授・熊本哲也との共著)

辻野稔哉(専門研究員)「カドラージュ -フランス語文法-」(熊本哲也との共著), 駿河台出版社, 2005年4月1日。

宮本直規(DC)「知覚動詞“voir”の現在分詞属辞構文・構造未決定性と意味について-」『フランス文学研究』(東北大学フランス語フランス文学会)第25号, pp. 40-52, 2005年2月。

宮本直規(DC)「直接目的語属詞構文での現在分詞の形容詞性」, 『フランス文学研究』(東北大学フランス語フランス文学会)第26号, pp. 67-78, 2006

年 2 月.

宮本直規 (DC) 「前置型現在分詞節の自立性」, 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会) 第 28 号, pp. 55-69, 2008 年 2 月.

宮本直規 (DC) 「提示詞と現在分詞／関係説」, 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会) 第 29 号, 2009 年 2 月刊行予定.

島貫葉子 (DC) 「芸術家と職人 - サミュエル・ベケット『ブルースト』における引用の問題 -」 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会) 第 26 号, pp. 15-22, 2005 年 2 月.

島貫葉子 (DC) 「Lisière et horizon chez Samule Beckett - le lyrisme et le motif de la fenêtre dans Malone meurt -」, 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会) 第 27 号, pp. 39-47, 2007 年 2 月.

荒川恒治 (DC) 「『悪の華』の始まりと終わり」, 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会) 第 25 号, pp. 1-14, 2005 年 2 月.

荒川恒治 (DC) 「「高い」「深い」に固有の焦点化傾向について—“意味の柔軟性” についての日英仏対照研究」, 『文化』 (東北大学文学会) 第 71 巻 3/4 号, 2008 年 9 月刊行予定.

荒川恒治 (DC) 「形容詞「深い」“profond”と発話主体の評価について」, 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会) 第 29 号, 2009 年 2 月刊行予定.

Isao HIROMATHU (DC) A propos de la stratégie narrative dans *Biblique des derniers geste* - Figuration du narrateur - personnage -, 科学研究補助金研究成果報告書「仏語表現クレオール文学の詩学」, pp. 49-63, 2005 年 3 月.

廣松勲 (DC) 「戦略としての「冒瀆的信仰」」, 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会) 第 27 号, pp. 48-60, 2007 年 2 月.

廣松勲 (DC) 「フランス語圏旧植民地におけるジェンダー—カリブ海域文学におけるジェンダー表象—」, 『男女共同参画社会の法と政策／ジェンダー法・政策研究センター年報』 (東北大学 21 世紀 COE プログラム「男女共同参画社会の法と政策」出版委員会編集) 第 4 号, pp. 157-167, 2007 年 4 月.

廣松勲 (DC) 「Remémoration créative dans *Au bout d'enfance* de Patrick Chamoiseau」, 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会) 第 28 号, pp. 41-54, 2008 年 2 月.

廣松勲 (DC) 「フランス語圏カリブ海域におけるクレオール文学運動の問題機制」, 『ポストコロニアル批評の諸相』 (東北大学若手研究者萌芽研究育成プログラム採択課題: 「ポストコロニアリズムのテキストにおけるアイデンティティ表象の比較文化史的研究」), 東北大学出版会叢書, pp. 233-263, 2008年3月.

廣松勲 (DC) 「Autoreprésentation de l' "auteur" dans *Solibo Magnifique*」, 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会) 第29号, 2009年2月刊行予定.

Yosuke FUKAI (DC) À propos du progrès poétique chez Rimbaud, 『フランス語フランス文学研究』 (日本フランス語フランス文学会) 第87号, 2005年6月.

深井陽介 (DC) 「他声と多声の詩学-ランボー、「地獄の夜」における「ぼく」の声の位相-」, 『文化』第70巻1・2号, 東北大学文学会, pp.156-134, 2006年9月.

佐藤由夏理 (MC) 「『失われた時を求めて』における baromètre をめぐって」, 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会) 第27号, pp. 23-38, 2007年2月.

上田督 (MC) 「歌われた言葉・ルソーと『言語起源論・あわせて旋律と音楽的写生について論ず』」, 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会) 第27号, pp. 1-22, 2007年2月.

(2) 口頭発表

翠川博之 (DC) 「遊び手のいない遊び—ジャン・ポール・サルトル『トロイアの女たち』における「世界」の表象とモラル」, 日本フランス語フランス文学会 (於北海道大学), 2004年10月2日.

宮本直規 (DC) 「<知覚動詞 <voir> + 名詞句 + 現在分詞>型構文について」, 日本フランス語フランス文学会春季大会 (於立教大学), 2005年5月28日.

宮本直規 (DC) 「N-voir-N-現在分詞型構文での現在分詞のアスペクト—en train de Inf との比較を通じて—」, 第3回東北フランス語研究会 (於東北大学), 2006年3月27日.

宮本直規 (DC) 「《N0・voir N1 現在分詞》構文での質的限定・N0と対象との距離」, フランス言語学勉強会 (於慶應義塾大学), 2006年11月11日.

- 宮本直規 (DC) 「前置ジェロンディフ節・分詞節と補語」, 第4回東北フランス語研究会 (於東北大学), 2007年3月16日.
- 宮本直規 (DC) 「提示詞 *voilà*, *il y a* + 現在分詞」, 第5回東北フランス語研究会 (於東北大学), 2008年9月6日.
- 島貫葉子 (DC) 「Beckett's anti-intellectualisme in Proust」, 第23回サミュエル・ベケット研究会 (於青山学院大学), 2004年7月10日.
- 島貫葉子 (DC) 「サミュエル・ベケット『プルースト』詩論」日本フランス語フランス文学会東北支部大会 (於秋田大学), 2004年11月27日.
- 島貫葉子 (DC) 「ベケットとニヒリズム - 評論『プルースト』における引用の問題」, 早稲田大学演劇研究センター21世紀COEプログラム (於早稲田大学), 2005年6月18日.
- 島貫葉子 (DC) 「Lisière et horizon chez Samuel Beckett - Crise ou évolution du lyrisme? -」, Borderless Beckett 国際サミュエル・ベケット・シンポジウム (於早稲田大学), 2006年9月30日.
- 島貫葉子 (DC) 「Les formes, métamorphoses et mises à l'épreuve du lyrisme dans la trilogie de Samuel Beckett - lyrisme et souffrance -」, 「Angela Moorjani 氏講演会」, 日本サミュエル・ベケット研究会主催, (於早稲田大学), 2008年3月22日.
- 荒川恒治 (DC) 「『悪の華』の始まりと終わり」, 日本フランス語フランス文学会東北支部大会 (於秋田大学), 2004年11月27日.
- 荒川恒治 (DC) 「『悪の華』(第二版)の「皮肉な」結末」, 日本フランス語フランス文学会秋季大会 (於新潟大学), 2005年10月15日.
- 荒川恒治 (DC) 「望ましさと形容表現について」, 第3回東北フランス語研究会 (於東北大学), 2006年3月27日.
- 荒川恒治 (DC) 「「深さ」のメタファーと認識スキーマの投射」, 第4回東北フランス語研究会 (於東北大学), 2007年3月16日.
- 荒川恒治 (DC) 「形容詞「深い」"profond"と発話主体の評価について」, 第5回東北フランス語研究会 (於東北大学), 2008年9月6日.
- 廣松勲 (DC) 「*Biblique des derniers gestes*における脱植民地以後のメランコリー」, 第17回GEFCO (現代フランス研究会) 例会 (於日仏会館), 2004年5月16日.
- 廣松勲 (DC) 「*Le Nègre et l'Amiral*における『卑猥なる笑い』-中間言語と la foi blasphématrice(冒瀆的信仰)-」, 日本フランス語フランス文学会 (於

- 北海道大学), 2004年10月2日.
- 廣松勲(DC)「Patrick Chamoiseau の『幼年期の果てに』における幼年期の想起と創造 - 「自伝」と「小説」の間で -」, 日本フランス語フランス文学会秋季大会(於新潟大学), 2005年10月15日.
- 廣松勲(DC)「フランス語圏旧植民地におけるジェンダー - カリブ海域文学におけるジェンダー表象 -」, 東北大学 21世紀 COE プログラム - 男女共同参画社会の法と政策 - の「ジェンダー法・教育クラスター研究会」(於東北大学), 2006年3月16日.
- 廣松勲(DC)「フランス語圏カリブ海域におけるクレオール文学の問題機制 - クレオール文学とは何か? -」, 第7回ポストコロニアル研究会(東北大学若手研究者萌芽研究育成プログラム採択課題:「ポストコロニアリズムのテクストにおけるアイデンティティ表象の比較文化史的研究」の一環)(於東北大学), 2006年7月21日.
- 廣松勲(DC)「『偉大なるソリボ』における自己表象の戦略 - パトリック・シャモワゾーとは何者か? -」, 日本フランス語フランス文学会(於岡山大学), 2006年10月28日.
- 廣松勲(DC)「忘却, 痕跡, 創造的想起 - P. シャモワゾーの『独房での日曜日』を中心に」, 日本フランス語フランス文学会(於岩手大学), 2008年11月8日.
- 深井陽介(DC)「詩の進歩について 1871年のバンヴィル宛書簡に含まれる三篇の詩と「花について詩人に語られたこと」」, 日本フランス語フランス文学会(於北海道大学), 2004年10月2日.
- 深井陽介(DC)「Rimbaud, à la recherche des temps perdus」, 日本フランス語フランス文学会(於慶應義塾大学), 2006年10月2日.
- 庄司麻美(MC)「depuis の空間的用法について」, フランス語学勉強会(於慶應義塾大学), 2006年5月21日.
- 庄司麻美(MC)「depuis の空間的用法について」, 日本フランス語学会第225回例会(於東京大学), 2005年6月18日.
- 佐藤由夏理(DC)「プルーストの晴雨計」, 日本フランス語フランス文学会秋季大会(於関西大学), 2007年11月11日.
- 塚本有史(MC)「アレクサンドル・デュマのフェミニズム - 『三銃士』における女性描写」, 日本フランス語フランス文学会東北支部会(於岩手県立大学), 2006年12月2日.

3 大学院生・学部生等の受賞状況

庄司麻美 (MC) 04年度 実用フランス語技能検定試験・駐日フランス大使賞.
サリナ (MC) 05年度 東北大学藤野記念賞.

4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2005年度 学部1名, ストラスブール第二大学 (フランス), 大学院2名, パリ第一大学 (フランス), パリ第四大学 (フランス) うち留学先でのDEA取得は2名.

2006年度 学部1名, ストラスブール大学 (フランス), 大学院2名, パリ第四大学 (フランス), モントリオール大学 (カナダ)

2007年度 学部2名, ストラスブール大学 (フランス), 大学院4名, パリ第四大学 (フランス), モントリオール大学 (カナダ), パリ第一大学 (フランス), レヌ第二大学 (フランス)

2008年度 大学院1名, ストラスブール第二大学 (フランス)

5-2 留学生の受け入れ状況

年度	学部	大学院	計
04	0	0	0
05	0	0	0
06	0	0	0
07	1	0	1
08	1	0	1
計	2	0	2

6 社会人大学院生の受け入れ状況

年度	前期課程	後期課程	計
04	0	0	0
05	0	0	0
06	0	0	0
07	0	0	0
08	0	0	0
計	0	0	0

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

2006年度 サリナ 北航中法工程師範学院（中国） 講師

2006年度 翠川博之 東北大学 文学研究科 助教

2008年度 辻野稔哉 秋田大学 准教授

計3名

7-2 専攻分野出身の高度職業人（中高教員）

計0名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

『フランス文学研究』，東北大学フランス語フランス文学会，年刊

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2004年5月 René Depestre 氏講演会

- 2004年11月 Régine Pietra 氏講演会
- 2005年10月 Michel Jarrety 氏講演会
- 2005年12月 シンポジウム「フランス研究とフランス語教育について考える」
(小田中直樹, 森田直子, 山元一, 西山教行, 司会: 阿部宏)
主催
- 2006年10月 Albert Prevos 氏講演会
- 2007年12月 日本フランス語フランス文学会東北支部会開催
- 2007年12月 シンポジウム「生成論」(今井勉, 佐藤伸宏, 司会: 阿部宏)
- 2008年1月 シンポジウム「ソシュール 150年 - 新手稿・主体・時間・
人称・倫理-」(小野文, 松澤和宏, 翠川博之, 阿部宏, 山本
史華, 司会: 今井勉)
- 2008年8月 赤羽研三氏講演会「ヴァーチャルな体験としての小説」(司会:
阿部宏)

1.2 専攻分野主催の研究会等活動状況

1) フランス語学・フランス文学研究会 (専攻分野内研究会)

2004年度

第18回: 2004年4月15日, 第19回: 2004年5月20日, 第20回: 2004年6月24日, 第21回: 2004年7月15日, 第22回: 2004年7月22日, 第23回: 2004年9月15日, 第24回: 2004年10月21日, 第25回: 2004年11月18日, 第26回: 2004年12月16日, 第27回: 2005年2月8日, 第28回: 2005年2月21日, 第29回: 2005年3月25日.

2005年度

第30回: 2005年4月15日, 第31回: 2005年5月28日, 第32回: 2005年6月24日, 第33回: 2005年7月15日, 第34回: 2005年9月9日, 第35回: 2005年10月21日, 第36回: 2005年11月18日, 第37回: 2005年12月16日, 第38回: 2006年1月20日.

2006年度

第39回: 2006年5月16日, 第40回: 2006年6月16日, 第41回: 2006年7月21日, 第42回: 2006年11月2日, 第43回: 2006年11月24日, 第44回: 2006年12月8日.

2007年度

第45回: 2007年5月25日, 第46回: 2007年6月29日, 第47回: 2007

年7月30日, 第48回: 2007年9月27日. 第49回: 2007年11月6日. 第50回: 2007年12月6日.

2008年度

第51回: 2008年4月25日. 第52回: 2008年5月20日, 第53回: 2008年6月27日. 第54回: 2008年9月26日.

2) 東北フランス語研究会

2004年度

第2回東北フランス語研究会 (於東北大学) :

宮本直規 (DC) 「voir の知覚構文」 ; 庄司麻美 (MC) 「Depuis の空間用法」 ; 阿部宏 (教授) 「バンヴェニストと主観性」, 2005年3月28日.

2005年度

第3回東北フランス語研究会 (於東北大学) :

宮本直規 (DC) 「N-voir-N-現在分詞型構文での現在分詞のアスペクト—en train de Inf との比較を通じて—」 ; 阿部宏 (教授) 「トートロジーと望ましき概念」 ; 荒川恒治 (DC) 「望ましきと形容表現について」 ; 酒井智宏 (東京大学 COE 研究員) 「スペース間コピュラ文としてのトートロジー」 ; 川島浩一郎 (福岡大学) 「代名詞と従属節」, 2006年3月27日.

2006年度

第4回東北フランス語研究会 (於東北大学) :

荒川恒治 (DC) 「垂直下方向型メタファー《profond》とその体系の一貫性について」 ; 阿部宏 (東北大学) 「ソシユールの恣意的体系概念について」 ; 宮本直規 (DC) 「前置ジェロンディフ節・分詞節と補語」 ; 川島浩一郎 (福岡大学) 「前置詞 comme をめぐる indistinction について」, 2007年3月16日.

2008年度

第5回東北フランス語研究会 (於東北大学) :

川島浩一郎 (福岡大学) 「固有名詞と冠詞について」 ; 宮本直規 (東北大学 DC) 「提示(voilà, il y a)の2次的叙述と現在分詞」 ; 阿部宏 (東北大学) 「主観性の日仏対照」 ; 酒井智宏 (慶應義塾大学) 「トートロジーと全称命題」 ; 荒川恒治 (東北大学 DC) 「形容詞「深い」《profond》と発話主体の評価」, 2008年9月6日.

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

当専攻分野は、阿部宏教授（フランス語学，対照言語学），今井勉准教授（フランス文学，クレオール文学），ヤン・メヴェル准教授（フランス文学，フランス地域文学），翠川博之助教（フランス思想・思想史，文学理論）という，スタッフ数は少ないながら，専門領域においてヴァリエーション豊かでバランスに富んだ陣容であり，その研究対象も従来の狭い意味でのフランス文学・語学研究の領域を超えたものとなっている．また，助教を含む教員スタッフ全員が博士号を取得している．

スタッフ間の学問的関心は相互に有機的に重なり合う面も多く，研究面での情報交換は大学院生や卒業生も交えて常に活発に行われている．世代の違いを超えて，教員，大学院修了者，大学院生，学部生間の交流が密で一体感があるのは，東北大仏文の伝統であり，研究室は常に知的な刺激に満ちた場となっている．

教員は，国内学会のみならず，国際学会での発表や司会，海外研修，海外誌への執筆を積極的に行っており，講義や内部の研究会等を通じてその成果を院生に披露することを常に心がけている．また，他大学での集中講義，公開講座，講演会の講師を担当し，自らの研究内容を精力的に外部に発信することに努めている．教育活動は専門領域にとどまらず，文学部1年対象の講義，学部1，2年対象の全学教育にも積極的に関与し，後者において全学部の学生にフランス語の基礎文法，講読，作文，会話などを教えると同時に，前者においては初学者にフランス文化の面白さを伝え，フランス語教育の裾野を広げる努力を行ってきた．さらに，当専攻分野では，外国人研究者，作家などを招いての講演会やコロク，あるいはフランス語教育，フランス文学，フランス語学関連のシンポジウムを頻繁に開催し，スタッフのみならず院生・学部生，東北圏の研究者にも研究の最前線に触れる機会を提供している．

学外の活動としては，日本フランス語学会編集委員・運営委員・学会誌編集長，日本フランス語フランス文学会編集委員など，全国学会で主要な役職を担当してきた．

学部学生の卒業論文は現代文学，近代詩，語学研究といった伝統的領域での研究が大部分を占めるが，ここ数年の傾向として映画，雑誌，料理等の文化表象一般にも関心が広がっている．近年，学生の関心にあわせて多様な講義を提供してきた効果が現れていると言えるだろう．

大学院は定員が各学年，修士2名，博士1名と小規模である利点を生かして，論文執筆，研究発表の予行練習など，綿密な指導を日常的に施している．院生は概して論文執筆や研究発表に積極的で，前期課程の段階から論文を発表する者もあり，後期課程ではほぼ全員が日本フランス語フランス文学会，日本フランス語学会など全国規模

の学会での発表を経験している。査読を通過し、学会誌に原稿が掲載される例も増えつつある。

また、大学院在学者のほぼ全員がフランス留学を経験している。かつてはフランス政府給費やロータリー財団奨学生としての留学が多かったが、最近では制度が整ってきた学内の交換留学制度を利用したり、日仏共同博士課程などの制度を利用する留学が増加している。留学経験を経て、学会発表をフランス語で行い、論文を仏文で書く者、市役所嘱託の通訳を務めた者などもおり、院生のフランス語運用能力はここ数年で飛躍的に伸びてきている。ルノー財団の奨学生としてフランスで経営学修士を取得し、帰国後、フランス大使館経済部や国際的企業に就職する例もでてきている。当専攻分野での教育活動は、フランス語を生かした高度職業人養成の機能をも果たしつつある。

Ⅲ 教員の研究活動（2004～2008 年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

齊藤征雄 「死へほどけて—物語と現実」、『秋田文学』14号, pp. 22-34, 2004年.

齊藤征雄 「物語の庭 —家族と恋愛—」、『東北大学文学研究科研究年報』第53号, pp. 1-34, 2004年.

齊藤征雄 「仏語表現クレオール文学の詩学」, 平成 15,16 年度科学研究費補助金による研究成果報告書（研究課題番号 15520142）, 2005.

齊藤征雄 「小泉八雲における霊的なもの」、『秋田文学』15号, pp. 38-51, 2005年.

齊藤征雄 「フランスの食文化」、『食に見る世界の文化』東北大学出版会、pp.73-116, 2007年4月.

阿部宏『フランス語空間表現の文法化研究』（平成 13～15 年度科学研究費補助金（基盤研究C, 2）研究成果報告書）, 全 68 頁, 2004年5月1日.

阿部宏 「Même の ETIAM 用法とその否定形 même pas について」、『フランス語学研究』（日本フランス語学会）38号, pp. 25-38, 2004年6月1日.

阿部宏 「「多かれ少なかれ」における尺度の性質について」、『日本認知言語学会論文集』第4巻, pp. 140-149, 2004年9月10日.

阿部宏 「ソーシャルと主体性概念について」、『文化』（東北大学文学会）第69巻 1/2号, pp. 1-22, 2005年9月22日.

- 阿部宏 「言語における尺度の主観化について –熟語 *qui plus est* を中心に–」,
『フランス語学研究会の現在 –木下教授喜寿記念論文集–』(木下教授喜寿記念
論文集編集委員会), 白水社, pp. 197-216, 2005年11月10日.
- Hiroshi ABE 《A propos de la notion de désirabilité dans le langage》, *Cognition et
émotion dans le langage* (Edité par J. Kawaguchi, K. Kida et K. Maejima), Keio
University, Center for Integrated Research on the Mind, pp. 207-222, 2006年3月
15日.
- 阿部宏 「熟語「多少」と主体化について」, 『日本認知言語学会論文集』第6巻,
pp. 54-63, 2006年9月10日.
- Hiroshi ABE 《Les deux grandes choses que Saussure n’a pas dites》, *Saussure et la
science des textes, 21st Century COE Program International Conference Series No.
9*, Graduate School of Letters, Nagoya University, pp. 5-17, 2007年3月27日.
- 阿部宏 「ソシュールが言わなかった大きな二つのこと」, *21st Century COE
Program International Conference Series No. 9*, Graduate School of Letters,
Nagoya University, pp. 87-98, 2007年3月27日. (上記論文の日本語版)
- Hiroshi ABE 《La locution *encore moins* et l’échelle de probabilité》, *Actes du XXIVe
Congrès International de Linguistique et de Philologie Romanes*, Max Niemeyer
Verlag (Tübingen), Volume 4, pp. 487-494, 2007年9月.
- 阿部宏, 「比較文法を批判してソシュールが考えたこと」, 『思想』(岩波書店),
pp. 52-69, 2007年11月号.
- 阿部宏, 「トートロジーと主観性について」, 『日本認知言語学会論集』第8巻,
pp. 212-222, 2008年5月10日.
- 阿部宏, 「日本語における「望ましき」概念について」, *On the notion of «desirability»
in Japanese*, *Proceedings of the International Conference in Japanese Studies;
Civilisation of evolution. Civilisation of revolution. Metamorphoses in Japan
1900-2000*, Jagiellonian University, Krakow, Poland (印刷中)
- Hiroshi ABE 《La tautologie et la notion subjective de “désirabilité”》, *Proceedings of the
18th International Congress of Linguists* (印刷中)
- 今井勉 「抽斗にしまった手紙 ——「ロヴィラ夫人関連資料」から恋文草稿を読
む——」, 『東北大学文学研究科研究年報』第53号, 東北大学大学院文学研
究科, pp. 154-176, 2004年.
- 今井勉 「『呪われた詩人たち』のマラルメ」, 『東北大学文学研究科研究年報』
第54号, 東北大学大学院文学研究科, pp. 82-108, 2005年.

- 今井勉 「クレオール文化学入門篇——テキスト・映像・音楽を手がかりとして——」, 平成 15~16 年度科学研究費補助金・基盤研究(C)(2) 研究成果報告書『仏語表現クレオール文学の詩学』, pp. 21-38, 2005 年; 『文化』第 69 巻第 1・2 号, 東北大学文学会, pp. 23-42, 2005 年.
- 今井勉 『ポール・ヴァレリー『註と余談』の生成研究』, 平成 15-16 年度科学研究費補助金・基盤研究(C)(2) 研究成果報告書, 80 p., 2005 年.
- 今井勉 「私の方法への Intromission」, 『現代詩手帖』特集「ヴァレリーの新世紀」,思潮社, pp. 88-91, 2005 年.
- 今井勉 「再び冒頭をめぐって」, 『東北大学文学研究科年報』第 55 号, 東北大学大学院文学研究科, pp. 94-114, 2006 年.
- 今井勉 「同一化原理をめぐって」, 『フランス文学研究』第 26 号, 東北大学フランス語フランス文学会, pp. 24-36, 2006 年.
- 今井勉 「フランス国立図書館草稿部所蔵『ド・ロヴィラ夫人関連資料』——解説と翻訳の試み——」 翻訳篇 (下) (恒川邦夫・塚本昌則との共同作業), 『ヴァレリー研究』第 4 号, 日本ヴァレリー研究会, pp. 25-40, 2007 年.
- Tsutomu IMAI, « Repenser l'incipit », *Valéry et Léonard : le drame d'une rencontre, Genèse de l'Introduction à la méthode de Léonard de Vinci*, Christina Vogel(éd.), Peter Lang, Frankfurt am Main, pp. 85-95, 2007 年
- 今井勉『ポール・ヴァレリー文明論テキストの生成論的研究』 平成 17~19 年度科学研究費補助金研究(基盤研究(C), 研究代表者今井勉, 課題番号 17520143) 研究成果報告書, 96 p., 2008 年 3 月.
- Tsutomu IMAI, « Au-delà de l'eurocentrisme – Valéry est-il possible dans le contexte postcolonial ? – », *Paul Valéry « Regards » sur l'histoire*, Études réunies par Robert Pickering, Presses Universitaires Blaise-Pascal, Clermont-Ferrand, pp. 211-220, 2008 年.
- Yann MEVEL « Après ou d'après Beckett? - Joël Jouanneau metteur en scène de Beckett » in *Samuel Beckett Today / Aujourd'hui*, 2004 年.
- Yann MEVEL « La chute des corps. De Beckett à Duras[Marguerite Duras] », in *Marges et transgressions*, 2006 年.
- Yann MEVEL « Une mélancolie des temps modernes? – Beckett entre monstreux et obscène » , in *Samuel Beckett Today / Aujourd'hui*, 2006 年.
- Yann MEVEL « A perte de vue. L'esthétique mélancolique de Jean-Phillipe Toussaint dans *Faire l'amour* » , in *Ecrire la ville*, Paris, Kimé, 2006 年.

Yann MEVEL Lire Beckett avec Starobinski, *Journal of Beckett Studies*, Vol. 16, No. 16, “Transnational Beckett”, sous la direction de S. Gontarski, Florida State University Press, 2007 年.

Yann MEVEL Mille et une nuits. Poétique de la nuit chez S. Beckett, *Le Nouveau Roman en question : vers une écriture des ruines, vers une ruine de l'écriture?*, sous la direction de J. Faerbder, Minard, 2008 年.

Yann MEVEL Beckett et le devenir du paysage, Beckett et les quatre éléments, *Samuel Beckett Today / Aujourd'hui*, sous la direction de K. Germoni, 2008 年.

Yann MEVEL M. Duras : Nuit(s) de la pensée, esthétique(s) de la nuit, *Duras et la pensée contemporaine*, Actes publiés sous la direction d'E. Ahlstedt et C. Bouthors-Paillart, Université de Göteborg, *Acta Universitatis Gothoburgensis*, 2008 年.

Yann MEVEL Une émancipation de la nuit? – La figure de la femme japonaise dans la littérature de langue française, *Actes du colloque international Représentations comparées du féminin en Orient et en Occident*, Université de La Réunion, sous la direction de Ch. Meure et M.-F. Bosquet, 2008 年.

Yann MEVEL La coyote et le chien dingo, poétique de l'ambivalence et ambivalence du désir dans La Grande Beune, *Mélanges en hommage aux Professeurs Jacques Dugast et Francine Dugast-Portes*, ouvrage sous la direction de P. Bazantay et J. Cléder, Presses Universitaires de Rennes, 2008 年.

翠川博之「戯曲『トロイアの女たち』における支配をめぐる考察」, 『フランス文学研究』第 26 号, 東北大学フランス語フランス文学会, pp.47-66, 2006 年.

翠川博之「魚が水に棲むように —サルトルの遺稿「道徳と歴史」について—」, 『東北大学文学研究科研究年報』第 56 号, 東北大学大学院文学研究科, pp.73-105, 2006 年.

翠川博之「アンガジュマンの由来と射程—主観性からの再起」, 『ポストコロニアル批評の諸相』岩田美喜・竹内拓史編, 東北大学出版会, pp.201-232, 2008 年 3 月 28 日.

1-2 著書・編著

Yann MEVEL *L'imaginaire de Samuel Beckett, de Murphy à Comment c'est*, Rodopi (Amsterdam / New York), 2008 年.

1-3 翻訳, 書評, 解説, 辞典項目等

- 阿部宏 「Saussure が隠蔽したもの・日本フランス語学会シンポジウム「ソーシャル研究の現在」報告」, 『フランス語学研究』 (日本フランス語学会) 第 39 号, pp. 89-91, 2005 年 6 月 1 日.
- 阿部宏 「渡邊淳也 (2004) 『フランス語における証拠性の意味論』, 早美出版」, 『フランス語学研究』 (日本フランス語学会) 第 39 号, pp. 86-87, 2005 年 6 月 1 日.
- 阿部宏 「シンポジウム報告・フランス研究とフランス語教育について考える (東北大学文学研究科主催シンポジウム)」, *Revue japonaise de didactique du français*, Vol. 1, n. 1, *Etudes didactiques* (の本フランス語教育学会), pp. 208-210, 2006 年 7 月 14 日.
- 阿部宏 「フランス語の心の声」, 『ふらんす』 (白水社) 連載, 2006 年 8 月号～11 月号.
- 阿部宏 「シンポジウム報告・文学・語学テキストのコーパス分析 -フランス語・英語・日本語- (日本フランス語学会シンポジウム)」, 『フランス語学研究』 (日本フランス語学会) 第 41 号, pp. 81-93, 2007 年 6 月 1 日.
- 阿部宏 「半過去をめぐって (日本フランス語学会シンポジウム)」, 『フランス語学研究』 (日本フランス語学会) 第 41 号, pp. 94-101, 2007 年 6 月 1 日.
- 今井勉 「トゥッサン・ルーヴェルチュールからエメ・セゼールまで」 (ルネ・ドゥペストル), 平成 15-16 年度科学研究費補助金・基盤研究(C)(2)研究成果報告書『仏語表現クレオール文学の詩学』, pp. 93-104, 2005 年.
- 今井勉 「クレオールをめぐる連続シンポジウム」, 『フランス文学研究』 第 24 号, 東北大学フランス語フランス文学会, pp. 58-59, 2004 年.
- 今井勉 「時空の旅, 二つ」, 『フランス文学研究』 第 25 号, 東北大学フランス語フランス文学会, pp. 59-60, 2005 年.
- 今井勉 「レオナルドの頃のヴァレリー」, 『フランス文学研究』 第 26 号, 東北大学フランス語フランス文学会, pp. 24-36, 2006 年.
- 今井勉 ダニエル・バッジオーニ『ヨーロッパの言語と国民』 筑摩書房, 449 p. (原著 Daniel Baggioni, *Langues et nations en Europe*, Paris, Payot, 1997, 378 p.) 2006 年 10 月.
- 翠川博之 「『出口なし』と「出口なし」」, 『フランス文学研究』 第 27 号, 東北大学フランス語フランス文学会, pp.73-77. 2007 年.

翠川博之 ジュール・ミシュレ『フランス史』全6巻，藤原書店，第5巻『18世紀史』より「摂政時代」の翻訳担当，2008年刊行予定。

1-4 口頭発表

齊藤征雄 シンポジウム「米糠をめぐるアジアの食文化」日本国際文化学会・パネリスト「アジアの文化」於名桜大学、2007年7月15日。

Hiroshi ABE 「La locution “qui plus est” et l'échelle de désirabilité」, Journées d'études de linguistique française (Claude Muller) , 於筑波大学, 2004年3月24日。

阿部宏 「ソシユールが隠蔽したもの」, 日本フランス語学会シンポジウム「ソシユール研究の現在」, 於白百合女子大学, 2004年5月28日。

Hiroshi ABE 《La locution “encore moins” et l'échelle de probabilité》, XXIVe Congrès International de Linguistique et de Philologie Romanes, The University of Wales, 2004年8月4日。

阿部宏 「望ましさ概念について」, 慶應義塾大学文学部21世紀COEプロジェクト「心の解明に向けての統合的方法論構築」「比較心性史班」成果報告会, 於慶應義塾大学, 2004年12月11日。

阿部宏 「文法化によるアスペクト・テンスの形成について-多義性をどうとらえるか?-」, 西南言語対照研究会招待講演, 於西南学院大学, 2005年3月5日。

阿部宏 「熟語「多少」と主体化について」, 第6回日本認知言語学会, 於お茶の水女子大学, 2005年9月17日。

阿部宏 日本フランス語学会シンポジウム「時・相・法: フランス語・ドイツ語・スペイン語の対照的観点から」オーガナイズ, 於東京大学(駒場), 2005年12月17日。

阿部宏 東北大学大学院文学研究科主催シンポジウム「フランス研究とフランス語教育について」オーガナイズ・司会, 於東北大学, 2005年12月27日。

阿部宏 「トートロジーについて」, 第231回日本フランス語学会例会, 於東京大学, 2006年4月15日。

阿部宏 日本フランス語学会シンポジウム「文学・語学テキストのコーパス分析-フランス語・日本語・英語-」オーガナイズ・司会, 於慶應義塾大学, 2006年5月20日。

Hiroshi ABE 《Les deux grandes choses que Saussure n'a pas dites》, Saussure et la science des textes, 21st century COE Program, Studies for the Integrated Text

- Science, Colloque international, Nogoya University, 2006年11月3日.
- 阿部宏 日本フランス語学会シンポジウム「半過去をめぐって」(於東京大学),
オーガナイズ・司会, 2006年12月16日.
- 阿部宏 フランス語談話会「アスペクトをめぐって」(於東京大学), オーガナイ
ズ・司会, 2007年7月14日.
- 阿部宏 「トートロジーと主観性について」, 第8回日本認知言語学会, 於成蹊大
学, 2007年9月22日.
- 阿部宏 「日本語における「望ましさ」概念について On the notion of «desirability»
in Japanese」, The International Conference in Japanese Studies ‘Civilisation of
Evolution. Civilisation of Revolution. Metamorphoses in Japan
1900-2000’ Jagiellonian University (Krakow), 2007年10月24日.
- 阿部宏 「ソーシャルの恣意性概念と言語における主観性について」, シンポジ
ウム「ソーシャル 150年 –新手稿・主体・時間・人称・倫理-」(東北大学
大学院文学研究科主催)(於東北大学), 2008年1月25日.
- 阿部宏 「シャルル・バイイの一節をめぐって –au moins, du moins, encore moins
と主観性-」, 第246回日本フランス語学会例会, 於慶応義塾大学, 2008年4
月26日.
- Hiroshi ABE 《La tautologie et la notion subjective de “désirabilité”》, The 18th
International Congress of Linguists, Korea University (Seoul), 2008年7月21日.
- Tsutomu IMAI «Au-delà de l’eurocentrisme – Valéry est-il possible dans le contexte
postcolonial ? –», Colloque international *Paul Valéry et l’Histoire*, Université
Blaise Pascal, Clermont-Ferrand, 2004年5月14日.
- Tsutomu IMAI «Repenser à l’incipit: signification et valeur des changements observés
», CNRS・ITEM (フランス国立科学研究所所属近代テキスト草稿研究所) ヴ
ァレリー研究班セミナー, フランス国立図書館, 2005年12月17日.
- 今井勉「始まりの始まり—『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』冒頭の生成を
めぐって」, 日本フランス語フランス文学会東北支部大会「テキスト生成論
シンポジウム: マニユスクリは何を語るか」, 於東北大学, 2007年12月1日.
- Yann MEVEL 《La chute des corps. De Beckett à Duras》, 国際学会“Margierite
Duras: Marges et transgressions”, Nancy (France), 2005年3月31日.
- Yann MEVEL 《De l’obscène selon Beckett》, 国際学会“19e congrès du Conseil
International d’Etudes Francophones”, Ottawa (Canada), 2005年6月27日.
- Yann MEVEL 《Une mélancolie des temps modernes? - Beckett entre monstrueux et

obscène 》, 国際学会“Présence de Samuel Beckett”, Cerisy-la-Salle (France), 2005 年 8 月 1 日.

Yann MEVEL 《 Mille et une nuits. La poétique de la nuit chez Samuel Beckett 》, 日本フランス語フランス文学会東北支部大会, 於弘前大学, 2005 年 11 月 12 日.

Yann MEVEL 《 Lire Beckett avec Starobinski 》, 国際学会“Samuel Beckett at 100 : New Perspectives”, Floride (Etats-Unis), 2006 年 2 月 9 日.

Yann MEVEL《M.Duras : nuit(s) de la pensée, esthétique(s) de la nuit》, マルグリット・デュラス国際学会—Marguerite Duras et la pensée contemporaine—, (於スウェーデン, Göteborg 大学) 2007 年 5 月 12 日.

Yann MEVEL “Une communication de la nuit? - La figure de la femme japonaise dans la littérature de langue française”, Colloque international Représentations comparées du féminin en Orient et en Occident, Université Saint Denis de La Réunion, sous la direction de M. F. Bosquet et Ch. Meure, 2007 年.

Yann MEVEL “Oh tout finir? Sur le motif de la disparition dans Je m’en vais, de Jean Echenoz”, Le Malaise existentiel dans le roman français de l’extrême contemporain, sous la direction de M. C. Clément et S. van Wesemael, Université d’Amsterdam, 2008 年.

翠川博之「構造主義と実存主義—構造と歴史の接点をめぐって」, シンポジウム「ソシユール 150 年 -新手稿・主体・時間・人称・倫理-」(東北大学大学院文学研究科主催) (於東北大学), 2008 年 1 月 25 日.

2 教員の受賞歴 (2004~2008 年度)

なし

IV 教員による競争的資金獲得 (2004~2008 年度)

(1) 科学研究費補助金

平成 15~16 年度 研究課題番号 15520142 基盤研究 (C) (2) 研究代表者 : 齊藤征雄 「仏語表現クレオール文学の詩学」 (平成 15 年度・直接経費 2,000,000 円, 平成 16 年度・直接経費 900,000 円)

平成 15~16 年度 課題番号 : 15520143 基盤研究 (C) (2) 研究代表者 : 今井勉 「ポール・ヴァレリー『註と余談』の生成研究」 (平成 15 年度・直接経費 700,000 円, 平成 16 年度・直接経費 500,000 円)

平成 17～19 年度 研究課題番号:17520143 基盤研究(C)研究代表者:今井勉「ポール・ヴァレリー文明論テキストの生成論的研究」(平成 17 年度・直接経費 1,200,000 円,平成 18 年度・直接経費 1,100,000 円,平成 19 年度・直接経費 900,000 円,間接経費 270,000 円)

平成 20～22 年度 研究課題番号:20520274 基盤研究(C)研究代表者:今井勉「ポール・ヴァレリー詩学の生成論的研究」(平成 20 年度・直接経費 1,200,000 円,間接経費 360,000 円)

平成 19～21 年度 研究課題番号 19520323 基盤研究(C)研究代表者:阿部宏「言語における「望ましさ」概念と主観性に関する研究」(平成 19 年度・直接経費 1,000,000 円,間接経費 300,000 円,平成 20 年度・直接経費 900,000 円,間接経費 270,000 円)

平成 20～22 年度 研究課題番号:20520275 基盤研究(C)研究代表者:翠川博之「サルトル演劇に見るモラルの研究」(平成 20 年度・直接経費 800,000 円,間接経費 240,000 円,平成 21 年度・800,000 円,平成 22 年度・1,600,000 円)

(2) その他

阿部宏 慶應義塾大学文学部 21 世紀 COE「心の解明に向けての統合的方法論構築」プロジェクト,「心性史班」研究分担者(2003 年度～2006 年度)

阿部宏 科学技術振興機構・社会技術研究事業・公募研究,「脳科学と教育タイプ II」,「母語獲得研究グループ」メンバー(2004 年度～)

V 教員による社会貢献(2004～2008 年度)

齊藤征雄

フランス語教育振興協会評議員,2000 年～2004 年.

「フランス・パンを通してみるフランス文化」放送大学宮城学習センター特別講演、2007 年 2 月 25 日

阿部宏

オープンキャンパス公開講義「ことばの科学」,2005 年 7 月 29 日.

「ことばの科学」,福島県立磐城高等学校出張講義,2006 年 10 月 16 日

「ことばとこころ」,宮城県立泉館山高等学校出張講義,2007 年 4 月 27 日.

第 25 回全国国公立大学対抗相撲大会会長(於仙台宮城野原運動公園),2007 年 5 月 27 日.

国立七大学体育大会 オープン戦・相撲競技 大会委員長（於仙台宮城野原運動公園），2008年8月17日。

今井勉

「現代詩『パリの憂鬱』の魅惑」，みやぎ県民大学「大学開放講座」，於東北大学，2004年9月11日。

「ロマン・ロラン『魅せられたる魂』を読む」，仙台市民読書グループ「手まりの会」，2005年2月24日。

「クレオール文芸入門」，山形県立長井高等学校「ミニカレッジ」，2005年9月17日。

「地中海賛歌——ヴァレリーの詩『海辺の墓地』を読む」，みやぎ県民大学「大学開放講座」，於東北大学，2008年9月6日。

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2004～2008年度）

齊藤征雄

日本フランス語フランス文学会 学会のあり方検討委員会 委員（2000年4月～2006年3月）。

阿部宏

日本フランス語学会 編集委員（1995年6月～2007年3月），運営委員（2004年6月～2006年5月）

日本フランス語フランス文学会 編集委員（2001年6月～2005年5月），資料調査委員（2001年6月～2006年5月）

東北大学フランス語フランス文学会 会長（2004年4月～）

今井勉

日本フランス語フランス文学会 学会誌編集委員会委員（2003年6月～2007年5月）。

東北大学フランス語フランス文学会 役員（1997年4月～）；編集委員長（2001年4月～）。

ヤン・メヴェル

サミュエル・ベケット国際学会共同主催者：“Présence de Samuel Beckett”, Cerisy-la-Salle, 2005年8月1日～2005年8月11日，役職名：responsable scientifique et intervenant.

翠川博之

東北大学フランス語フランス文学会 役員，編集委員（2004年4月～）

Ⅶ 教員の教育活動（2004～2008 年度）

（1）学内授業担当

1 大学院授業担当

阿部宏・教授

- 1 学期 フランス語学研究演習Ⅰ フランス語学の現代的トピックⅠ
- 2 学期 フランス語学研究演習Ⅱ フランス語学の現代的トピックⅡ
- 通 年 課題研究（フランス語学フランス文学）

今井勉・准教授

- 1 学期 フランス文学研究演習Ⅰ ボードレール『パリの憂鬱』研究（1）
- 2 学期 フランス文学研究演習Ⅱ ボードレール『パリの憂鬱』研究（2）
- 1 学期 フランス文学研究演習Ⅲ ヴァレリー『魅惑』研究（1）
- 2 学期 フランス文学研究演習Ⅳ ヴァレリー『魅惑』研究（2）
- 通 年 課題研究（フランス語学フランス文学）

ヤン・メヴェル・准教授

- | | | |
|------|-------------|-----------------------------|
| 1 学期 | フランス語学研究演習Ⅲ | Orients de Marguerite Duras |
| 2 学期 | フランス文学研究演習Ⅴ | Pierre Michon |
| 1 学期 | フランス語学研究演習Ⅳ | Orients de Marguerite Duras |
| 2 学期 | フランス文学研究演習Ⅵ | Pierre Michon |

2 学部授業担当

阿部宏・教授

- 3 セメスター 専門フランス語 読めるフランス語
- 4 セメスター 人文社会序論 2セメからはじめるフランス語
- 5 セメスター フランス語学演習Ⅰ ソシユール以降
- 6 セメスター フランス語学演習Ⅱ フランス語と日本語・英語

今井勉・准教授

- 1 セメスター 人文社会総論 フランス文学入門
- 4 セメスター 専門フランス語 時事フランス語
- 3 セメスター フランス文学概論Ⅰ フランス現代文学概観(1)
- 4 セメスター フランス文学概論Ⅱ フランス現代文学概観(2)
- 5 セメスター フランス文学各論Ⅰ ボードレール『パリの憂鬱』研究（1）
- 6 セメスター フランス文学各論Ⅱ ボードレール『パリの憂鬱』研究（2）

ヤン・メヴェル・准教授

5 セメスター フランス文学演習 I Ecrivains de Bretagne, écrivains en Bretagne

6 セメスター フランス文学演習 II Ecrivains de Bretagne, écrivains en Bretagne

5 セメスター フランス語科教育法 I Langue et culture de la France contemporaine

6 セメスター フランス語科教育法 II Langue et culture de la France contemporaine

翠川博之・助教

2 セメスター 人文社会序論 文学理論で読む文化表象

3 セメスター フランス文学基礎講読 I 『フランス史』講読

3 セメスター フランス語学概論 I 言語学の視点

4 セメスター フランス語学基礎講読 言語学の応用

3 共通教育・全学教育授業担当

阿部宏・教授

1 セメスター 展開フランス語 I

2 セメスター 展開フランス語 II

今井勉・准教授

2 セメスター 総合科目 (世界の食と文化) 「フランスの食と文化」担当

3 セメスター 展開フランス語 I

4 セメスター 展開フランス語 II

ヤン・メヴェル・准教授

1 セメスター 基礎フランス語 I

2 セメスター 基礎フランス語 II

(2) 他大学への出講 (2004~2008 年度)

阿部宏・教授

2005 年度 名古屋大学 (集中講義)

2006 年度 愛知県立大学 (集中講義)

今井勉・准教授

2005 年度 宮城学院女子大学

2008 年度 神戸大学 (集中講義)

翠川博之・助教

2006 年度 東北学院大学・宮城学院女子大学

2007 年度 東北学院大学・宮城学院女子大学

2008 年度 東北学院大学・宮城学院女子大学